

# 国際シンポジウム

## アクティベーションか、ベーシックインカムか 持続可能な社会構想へ

主催：文部科学省科学研究費基盤研究（A）

「脱「日独型レジーム」の比較政治分析」（研究代表者：北海道大学 宮本太郎）

社会政策学会国際交流委員会

共催：社団法人 生活経済政策研究所

北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター

グローバルCOEプログラム「多元分散型統御を目指す新世代法政策学」

（拠点リーダー：北海道大学 田村善之）

貧困、格差、生活不安からの脱却の道をどう展望するか。新しい福祉社会はどのようにデザインされるべきか。先進工業国のさまざまな経験、動向を見渡すと、大きく二つの考え方が分岐します。

一方では、雇用と社会保障を徹底して連携させ、人々の就労を支援しはたらく見返りを高めるアクティベーションの方向です。他方では、所得保障を雇用と切り離し、柔軟な社会の構築を目指すベーシックインカムの方向があります。この二つの戦略は、部分的には重なり合いながらも、福祉社会の未来について、異なったビジョンとむすびつきます。

政権交代後の日本の状況をふまえて、この二つの戦略をどのように評価し、いかに現実化していくべきなのでしょう。

このシンポジウムは、デンマーク福祉国家やアクティベーション政策の研究で知られる、オーフス大学教授のヨルゲン・グル・アンデルセン教授、今日のベーシックインカム研究の若手の中心でもあるルーベンカトリック大学のヤニク・ヴァンデルホルヒト教授を招き、この二つ戦略の対立と重なり、各国の経験、日本にとって示唆するものについて討論をします。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

報告者：ヨルゲン・グル・アンデルセン教授

（デンマーク オーフス大学）

ヤニク・ヴァンデルホルヒト教授

（ベルギー ルーベンカトリック大学）

使用言語：英語

日時：2010年2月26日（金） 14：00～17：00

場所：ホテルグランドパレス（東京都千代田区飯田橋）

3階 牡丹・あやめの間 <http://www.grandpalace.co.jp/access/top.html>

申込方法：参加を希望される方は、2月19日（金）までに

[226sympo@juris.hokudai.ac.jp](mailto:226sympo@juris.hokudai.ac.jp)

宛メールにてお申し込みください（先着40名受付）。

問い合わせ：グローバルイノベーション&ガバナンス研究プロジェクト事務局

〒060-0809 北海道札幌市北区北9条西7丁目

北海道大学大学院法学研究科 TEL/FAX：011(706)3798

E-mail：226sympo@juris.hokudai.ac.jp